

鉄鋼業の地球温暖化対策への取組

自主行動計画進捗状況報告

平成19年10月

(社)日本鉄鋼連盟

報告事項

概要

鉄鋼業の自主行動計画について

生産工程における取組

廃プラスチック等の利用状況

製品等による貢献

未利用エネルギーの近隣地域での活用(産業間連携)

民生・運輸部門等への貢献

中長期的な技術開発

我が国鉄鋼業の国際連携

まとめ

概要 自主行動計画の数値目標の進捗(2006年度実績)

粗鋼生産が拡大(1990年度比5.4%増)する中、
エネルギー原単位の改善(1990年度比補正 7.7%,単純 10.1%)により、

- ・ エネルギー消費量は、1990年度比 5.2%
- ・ CO₂排出量は、1990年度比 5.1%

今後、

- ・ 省エネ対策(3.2%相当)
- ・ 京都メカニズムの活用(4.3%相当)

これらの取組により **目標達成**を目指す

概要 自主行動計画の全体像(2006年度実績)

・生産工程で 1,045万トン-CO₂(1990年度比 5.1%)

・民生運輸等 1,242万トン-CO₂(製品・副産物での貢献)

・国際貢献で 1,344万トン-CO₂(技術移転・副産物輸出)

合計 3,631万トン-CO₂(日本の排出量の約 3%相当)

地球規模での削減に向けた取組

- ・日中鉄鋼業省エネ・環境保全専門家交流会、APP、IISIで、具体的なセクtralアプローチを推進
- ・APPの省エネ技術普及率調査で、参加6カ国のCO₂削減ポテンシャルが127百万トンと判明(日本のCO₂総排出量の約1割に相当)

革新的な技術開発の推進

・CO₂の分離・回収、水素還元

APP: Asia Pacific Partnership on Clean Development and Climate(クリーン開発と気候に関するアジア太平洋パートナーシップ)
IISI: International Iron and Steel Institute(国際鉄鋼協会)

鉄鋼業の自主行動計画について

(1) 鉄鋼業の環境保全に関する自主行動計画(96.12策定)

鉄鋼生産工程における省エネルギーへの取組

- 2010年度のエネルギー消費量を1990年度に対し、10%削減目標(粗鋼生産1億トンレベルを前提)

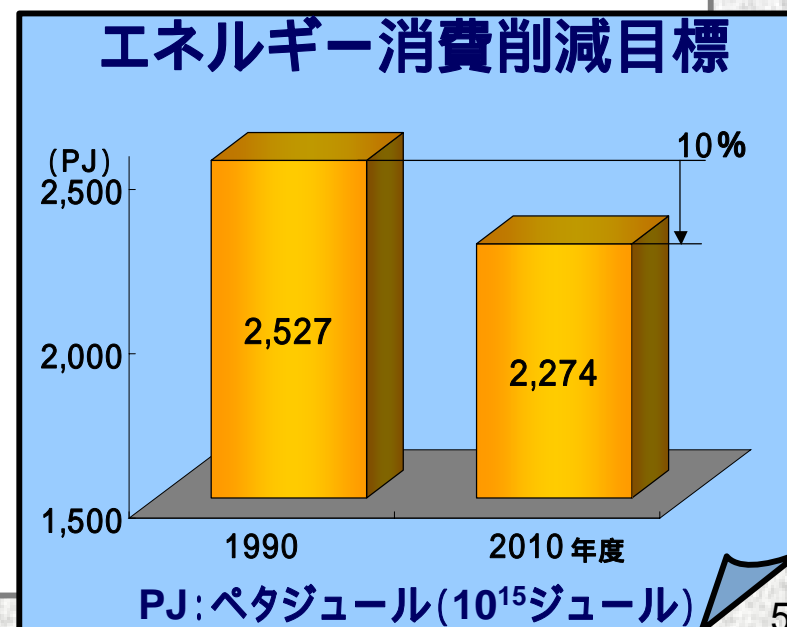
廃プラスチック等の有効活用(追加的取組)

- 集荷システムの確立を前提に100万トン活用

製品・副産物による社会での
省エネルギー貢献

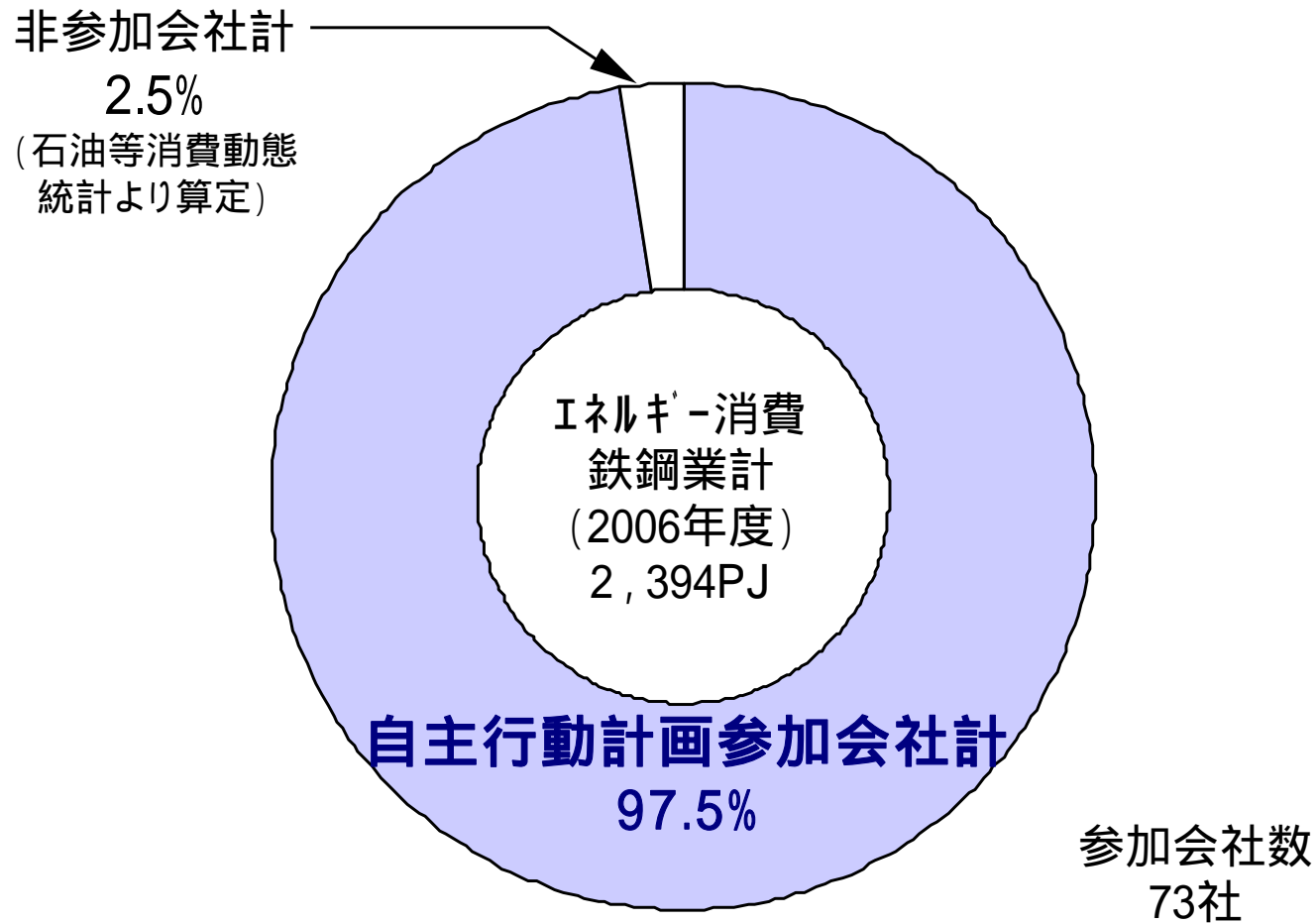
国際技術協力による省エネ
ルギー貢献

未利用エネルギーの近隣地域
での活用



(2) エネルギー消費量の把握状況

エネルギー消費量カバー率100%



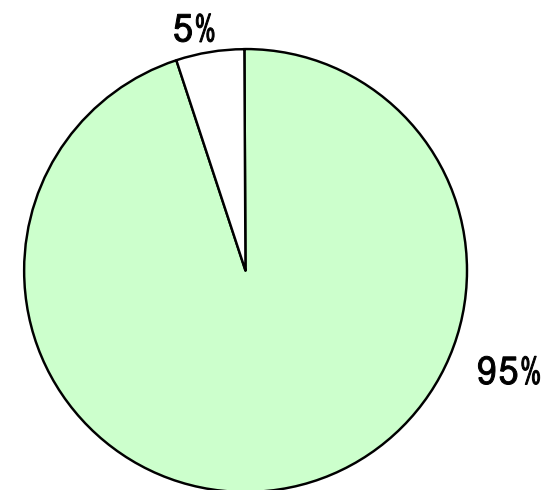
(参考) 鉄鋼会社はCO₂排出量を自主的に公表し、全体の約95%をカバー

高炉会社の例

(単位:百万t-CO₂)

新日本製鉄 Gr.	67
JFEスチール	56
住友金属工業 Gr.	25
神戸製鋼所	17
日新製鋼	8

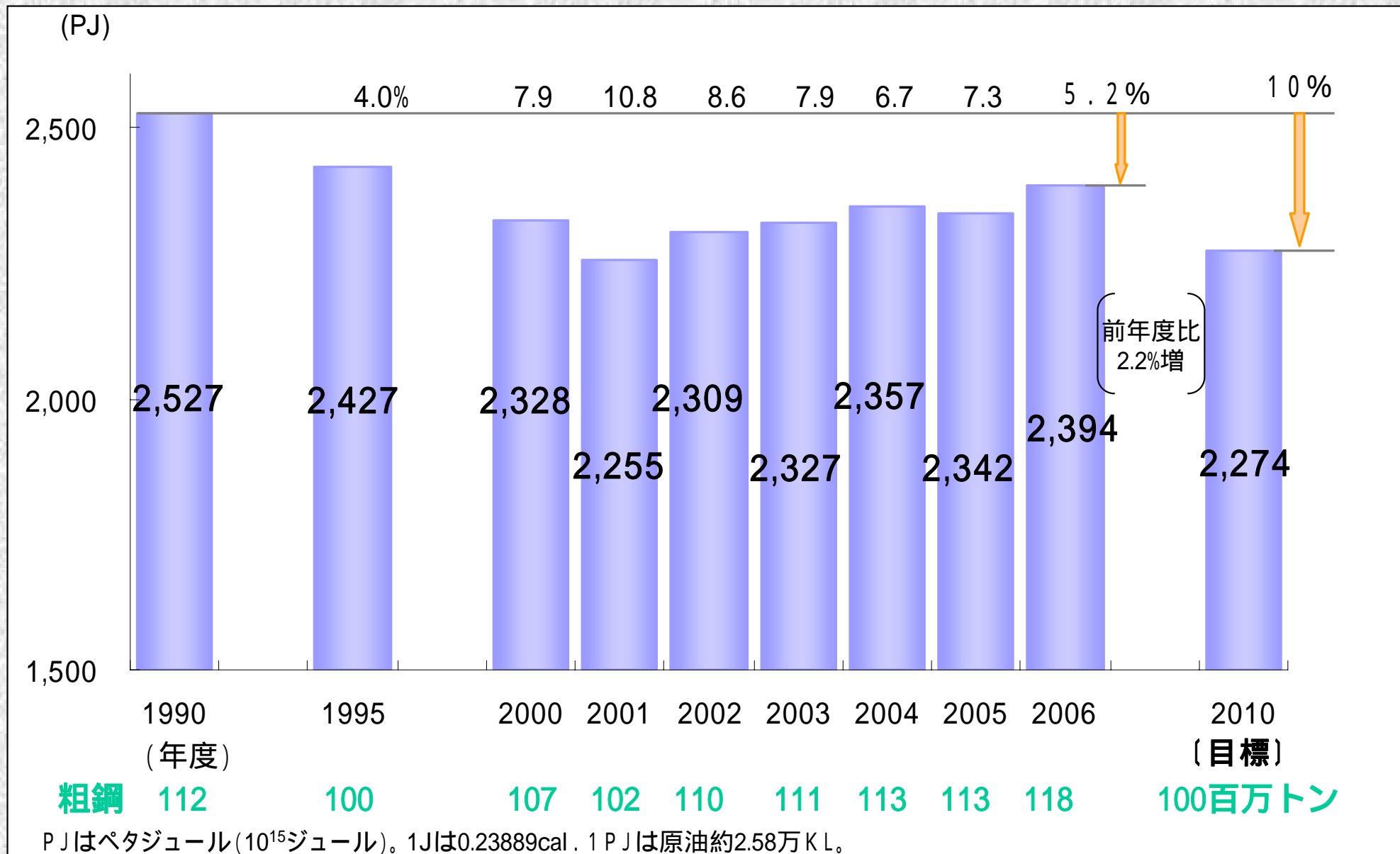
鉄鋼会社が環境報告書等で自主的に公表している
2005年度のCO₂排出量の割合



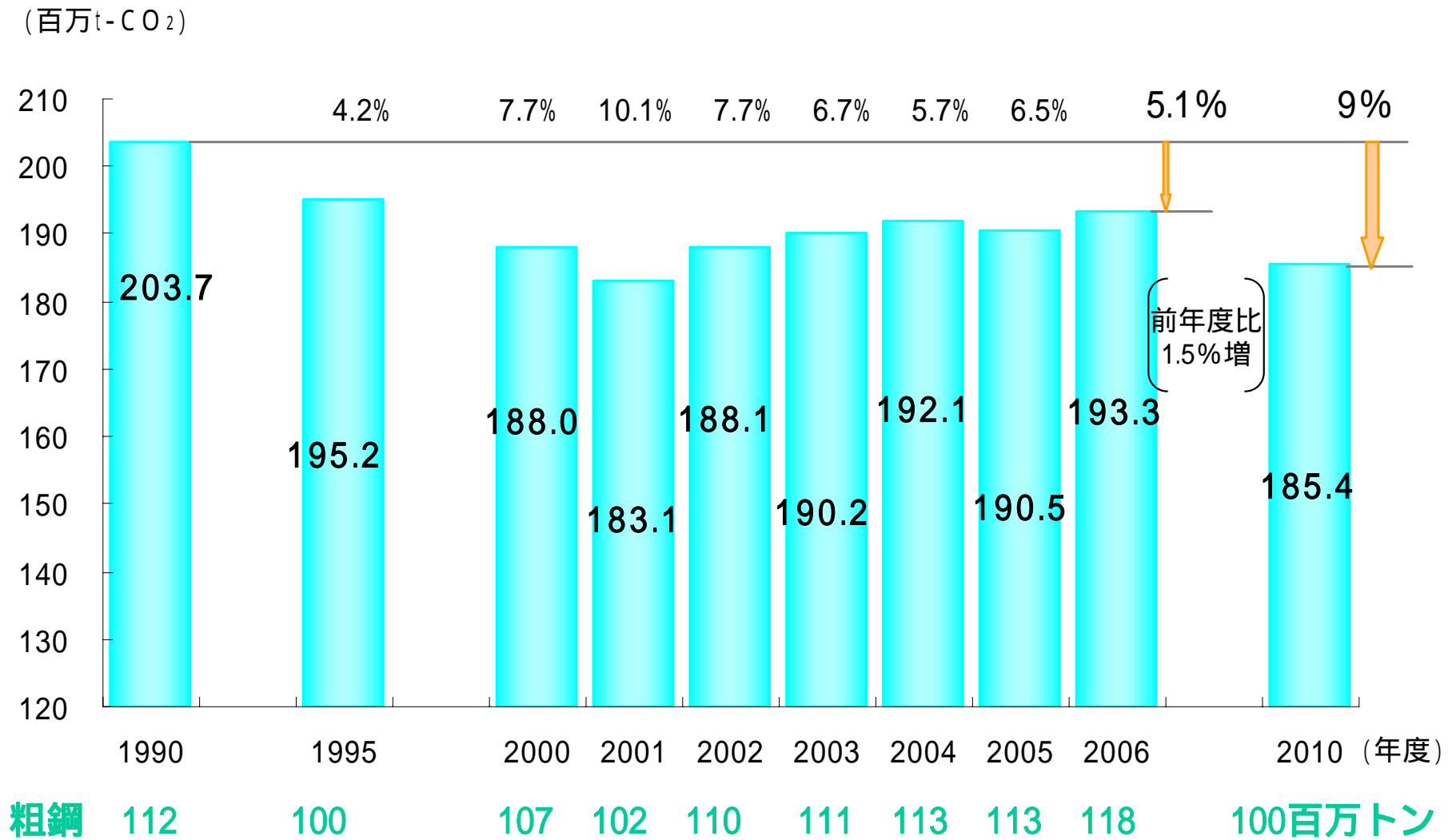
□ 公表 □ 未公表

生産工程における取組

(1) エネルギー消費量の推移



(2) エネルギー起源CO₂排出量の推移



(3) 1990年度の見直し結果について

コークス製造のバウンダリーの拡大、適正化（構外委託製骸も対象）

「総合エネルギー統計」の単位発熱量見直し

国連報告の我が国GHG排出量の算定に当たっての炭素排出係数改定

内 容	90年度見直し結果	
	エネルギー 消費(PJ)	CO ₂ 量 (万tCO ₂)
バウンダリー適正化	39	215
エネルギー単位発熱量見直し	31	86
CO ₂ 排出係数見直し	-	709
合 計	8	838

(4) GHG排出量の推移

非エネルギー起源のCO₂(石灰石及びドロマイト)及びメタンは、1990年度比16.6%減。

